

奈良女大家政 北口 照美

目的 戶外生活空間として公園緑地は大切な部分を占めてゐる。ニュータウンでは、計画的に児童公園や遊歩公園などを設置されるが、このような場所に住んでいゝ人々から、どのような計画による公園緑地について、どのような意識を知り、問題点を探ろうとするものである。

調査について 奈良市平成ニュータウン、対象家庭の中学生以上全量についてアンケート。日時は昭和55年7月、これは昭和50年に行つた「用地内の公園緑地の利用のたけ方」についてのアンケート調査」と5年間隔での追跡調査となるものである。この平成ニュータウンは昭和47年から入居が始まり、前回の調査時点は、開発直後で未整備な点が多い地域であつた。今回、完成後の時間的経過もあり、樹木の成長し、落ち着きのみられるところである。

調査内容 ニュータウン内の公園緑地について、利用度、評価。ニュータウン全年度の公園緑地の数に打てる満足度、不足していると思われる施設などについて。

結果 本年度の結果は予想してゐないが、昭和50年の結果では、全体的数は充分あるが、その施設や内容について不満を述べていた。どのようなものが欲しいかの問に対して、運動利用施設に対して6割を最大に、環境緑化の「みどり」5/20、噴水、花壇などの修景施設に4割など、ニュータウン開発進行中での未整備への批判と「みどり」などの導入を求めよう方向でついていた。